

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000786		
法人名	有限会社K. G. N		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字川原881-1 (電話) 0983-21-4120		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町の郊外に位置し、周囲を緑に囲まれた小高い丘の中腹に在る。近くには、県内でも人気のある川原自然公園があり、夏場はキャンプ場としてにぎわっている。開設して4年目を迎えたホームだが、異動や離職がほとんどない。代表者と職員は一人となり、利用者が心穏やかに暮らせるホームを目指し、日々研さんしている。終末期に向けた対応も家族や本人と心行くまで話し合いを重ね、その人の思いに寄り沿ったケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価の改善課題については、改善目標を設定し、ミーティングを重ねながら全職員で改善を行っている。利用者の心穏やかに暮らせる場所にするのが新たな理念として盛り込まれ、非常災害時のマニュアルと対策が強化された。ホーム便りも発行され、今後定期的に発行する用意がある。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 開設4年目とホームの歴史は浅いが、職員は定着し、代表者を中心に利用者の幸せを願ってのミーティングを行ってきた。今回の自己評価もその一環として職員全員で取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連事項：外部4、5、6） 運営推進会議は3か月に1回開催し、運営状況報告や外部評価の結果報告、行事の説明を行っていた。今後の開催については、2か月に1回をめざしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8） 家族会が設けられ、家族の意見や苦情、不満が出しやすい環境を作っている。運営推進会議には、家族の代表が出席して自由に意見や苦情を述べられるが、過去において意見や不満等は出されていない。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 代表者は、町の行政や地域住民との交流が深く、利用者や職員と地元住民のパイプ役を担っており、福祉スポーツ大会や祭りの参加で地域とのつながりを深めている。

## 【情報提供票より】（平成21年5月20日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人、非常勤3人、常勤換算4.6人	

### （2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### （3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	18,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### （4）利用者の概要（平成21年5月20日現在）

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 85歳	最低 75歳	最高 100歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	木城クリニック、高城歯科医院
---------	----------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域との交流を交えながらその人らしく、笑いがあり、美味しく食事ができ、心穏やかに安心して暮らせる理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者と管理者、職員で共に作りあげた理念は、ミーティングや会議の中で常に取り上げ、意識づけをし、実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者や職員は、利用者の買い物や散歩で地元の人々とふれ合いの場を持ったり、福祉スポーツ大会や祭り等に参加し交流を行っている。	○	地域との交流では、開かれたグループホームとして、もっとホームの資源を有効に活用し、介護教室や料理教室、お茶会への誘い等を計画したり、行政から職員の研修に来てもらったり、老人クラブや子供会等との交流を深めていただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を活かし、常に利用者の安全と安心そして楽しみのある暮らしにつながるよう改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は3か月に1回開催しているが、今後は、2か月に1回を目標に準備している。ホームの行事や外部評価の改善状況を行政と地域の人々に報告し、理解を得るよう取り組んでいる。	○	会議の出席者には、できるだけ多くの関係機関の参加を積極的に呼びかけ、報告に限らず、関係機関の立場からの助言や指導をもらい、サービスの質の向上に生かしていただきたい。家族会の開催も、この機会を利用し、家族同士や職員の交流を深めていただきたい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者や管理者は、運営推進会議の役場担当者のもとより、普段から、町長や各課とのコミュニケーションを行い、サービスの質の向上につながるよう努力をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には、日々の生活状況や健康状態、職員の状況等をきめ細かく報告している。また、ホーム便りの増刊も予定しており、利用者の日々の活動の様子も写真等で紹介する取組をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員ならびに外部者に意見、不満、苦情を表せる機会と環境を設けている。管理者や職員は、家族の意見を取り入れ利用者が暮らしやすくするための運営に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から職員の移動はほとんどない。利用者はなじみの管理者や職員による支援を受けているが、やむを得ない職員の移動がある場合は、その理由を説明し不安やダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員に対して勤務等を調整し、内部研修や外部研修の機会を作る努力をしている。研修後はミーティングで他の職員に報告、ファイルし活用している。	○	研修後の復命書は実務に生かすよう改善されたが、今後は日々の支援を通して必要を要することや専門職に応じた必要項目を順を追って年間計画に取り入れ、計画的に実施されることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム中央北連絡協議会に加入し、相互研修やスポーツ大会等、地域間同業者の交流を持っている。今後は町外のホームとの交流にも輪を広げサービスの質の向上に取り組む予定がある。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員が自宅を訪問したり、希望に応じて事前にホームを見学してもらい、本人や家族が場の雰囲気に徐々に馴染めるようにし、納得していただいてから利用開始をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「利用者は人生の先輩」という考えを共有している。職員は、利用者の生活歴から日々の生活に生かす知恵を多く学ぶとともに、個人ごとの能力を引き出し役割を持たせ、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者への話しかけ、働きかけ、それに伴う行動や表情を観察し、本人の意向や希望の把握に努めている。また、利用開始前の生活状況や環境、家族の意向も参考にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護記録や担当者の気づきをミーティングで持ち寄り、全職員で意見交換を行いながら、本人、家族、本人の関係者のそれぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直されている。ミーティングや家族の要望、本人の健康上の変化や介護方法の変更が生じた場合は随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院介助、外泊、墓参り等、なじみの関係を大切にしながら柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんど本人及び家族が希望する医師を主治医としている。それぞれの主治医とも良い関係を築いている。緊急な場合には、ホームの協力医を受診したり往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は、本人、家族、職員それぞれの意向を聞きながら、十分話し合いをすすめるとともに、主治医の協力をいただき関係者全員で方針を共有している。すでに2名の終末期支援を経験をし、家族から大きな信頼を得ている。代表者や職員は、終末期支援に前向きに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格や誇りを傷つけないよう細心の気配りをしている。また、職員は、個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を傾聴しながら、体調に合わせてゆとりのある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	人間の基本である食を「美味しく楽しい食卓に」をスローガンとしている。利用者の力量に合わせ食事の準備や片づけを職員と一緒に楽しんでいる。食事形態も摂食状況に応じ、カットしたり、刻みで提供しており、食事を楽しく工夫した支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに行っている。希望があれば、毎日入浴できる支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節折々の行事の準備や、カラオケ、買い物、散歩、菜園には、作る喜びと食べる楽しみを兼ねてスイカや季節の野菜など一人ひとりの生活歴を生かした楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回の割合で近くのスーパーに出向きショッピングを楽しんでいる。希望の散歩コースを散策したり、時には、ドライブで遠征を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていない。正門から玄関までの距離空間がゆったりと確保しており利用者の行動範囲にゆとりが見られる。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、目配り、気配りの安全確保に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回地区消防団の協力の下に、避難訓練を実施している。避難経路の確認、テラスへの誘導、動けなくなった利用者の搬送など、今後は、この一連の動作がスムーズに行なえるよう月1回の訓練をしていきたいと思っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の必要量に準じた献立を作成している。高齢者に不足しがちな水分量もチェック表で管理しており、利用者の好みや希望を取り入れたバランスのよい献立を作成している。今後、町の栄養士の助言等を得て栄養管理の支援に取り組む用意がある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体がふんだんに木を組み合わせた造りで、温もりや、やさしさが感じられる。利用者の集まる居間は、玄関から入ってすぐの大きなガラス窓越しに見え、広々して明るい。また、空調の温度管理もよく居心地がいい。室内には、家族や利用者の手造りの作品も置かれている。厨房は、利用者から見える位置にあり調理の様子が、食事への期待感をもたせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、昔から使い慣れた小物や家具が持ち込まれ居心地良く、安心して生活できるように工夫されている。		

※  は、重点項目。